

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立嵩山小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 441-1111
豊橋市嵩山町字宮下78番地の1

E-mail suse-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.suse-e.toyohashi.ed.jp/suse-e/index1.htm

幼児児童生徒数 男子 39名 女子 42名 合計 81名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「未来にはばたく嵩山学」を活動テーマとして、地域と連携し、特色ある教育活動を推進することをESDと捉え、ESDの実践を通して、ふるさとを大切に思う心と未来を生き抜く力を育成することを目標とした。

具体的には、環境、食、歴史を柱に、①地域の自然にかかわる学習、②食農にかかわる学習、③地域の歴史にかかわる学習を行った。

① 地域の自然にかかわる学習

4年生の総合的な学習「守ろうホタルの里嵩山」を中心に、地域の自然環境を守ろうとする態度の育成をねらい、ホタルの幼虫の飼育・放流、ホタルやその餌であるカワニナがすむ嵩山川の環境調査・保全活動を行った。今年度は、約1,000匹の幼虫を、全校で嵩山川に放流した。学習発表会では、4年生がホタルの舞う嵩山を未来に残そうというテーマで発表し、地域の自然環境を大切にする気持ちを高めた。

② 食農にかかわる学習

5年生の総合的な学習「続けよう作ろまい嵩山米」では、郷土や農業に携わる人々に対する理解を深めることをねらいとして、地域の農業ボランティアの方々の指導を受けながら、一連の伝統的な稲作作業の体験や調べ学習を行った。12月には地域の方々や保護者の協力を得て、全校で餅つき会を開いた。また、全校の縦割り班（だるま班）でジャガイモやサツマイモを育てたり、学年でトマトなどを育てたりした。これらを通して、食への感謝の気持ちを高めながら、私たちの食を支える農業が担う価値について学ぶことができた。

③ 地域の歴史にかかわる学習

6年生の総合的な学習「伝えよう嵩山の歴史」では、地域への理解を深め、誇りに思う心を育てることをねらいとして、校区の歴史について各自がテーマをもって調べ学習をした。本校の校区は歴史のある地域であり、実際に現地を見学したり、家族や地域のお年寄りに取材したりすることで、新たな発見や気づきがあり、校区の歴史的なものやできごとを後世に伝えていきたいという思いをもつことができた。



①【飼育してきたホタルの幼虫の放流】



②【地域の方々の指導のもとでの田植え】



②【全校縦割り班でのいも掘り】



③【地域の歴史についての取材】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (地域の歴史にふれる活動)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、地域資源（地域の人・もの・こと）を生かした教育活動を「嵩山学」と名付け、全学年において、生活科や総合的な学習を中心として各教科や領域等において、地域と連携した学習となるような単元づくりをしている。その際、各単元で目ざす子どもの姿を明確にし、ねらいに迫るための体験活動を重視するとともに、子ども自らがもつ問いを大切にし、問題解決的な学習となるように努めている。また、協働的に学習する場面を多く設定することで、主体的・対話的な学びの実現を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「嵩山学」のカリキュラムづくりにおいて、全校体制でPDCAサイクルで見直し、学年間のつながりや教科横断的な計画、地域との連携などについて、一人一人の職員の意見を生かしながら改善を図っている。また、「ホタルの放流会」や「もちつき会」など、各学年の学習のまとめを全校で取り組むようにしている。学校全体の児童、職員が関わる場面をつくることで、各活動に継続的に取り組むことができると考える。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

職員への自己評価では、ESDの視点による活動を取り入れた特色ある学校づくりの推進について、学校全体として「十分に実践された」と評価している。また、保護者へのアンケートからは、9割以上が地域の特性を生かした教育活動に取り組んでいると評価している。学校関係者からは、学校の特色を生かした教育活動の展開について、今後もさらに内容を充実させてほしいという意見をいただいた。地域教材をより生かす単元づくりを進めたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「もちつき会」では、地域の方々や保護者を招き、中心となって活動してきた5年生が、米作りについての学習の成果を発表した。「ホタル放流会」では報道関係の取材で、子どもたちが取り組んできた活動を広く知らせることができた。また、各学年のESD活動を模造紙にまとめたものを校区市民館に掲示した。これらの発信によって、これまで以上に学校の教育活動に対する理解、協力を得られるようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

1、2年生は、昔の遊びを教えてもらうことを通して、校区の「ふれあいクラブ」のお年寄りとの交流をしている。また、隣接する保育園と、七夕会や観劇会での交流をしている。4年生は、ホタル放流会で、地域の川を守る団体から講師を招き、活動を継続していく大切さを再認識する機会としている。5年生や6年生は、米作りや校区の歴史についての学習で、地域の農業ボランティアの方々や校区の方々からの協力を得ている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本年度、ユネスコスクール豊橋大会に参加し、他のユネスコスクールの実践について学ぶ機会を得た。各校の取り組みのすばらしさにふれ、ESDの視点から本校の取り組みをよりよいものにしていく大切さを感じている。近隣の学校でも、ホタルの飼育・放流を行っている学校があり、情報交換を進めつつある。今後は、児童の取り組みについてお互いに発信し合い、活動をよりよく継続していく方法を共有できるとよいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

地域の人・もの・ことを生かした教育活動を「嵩山学」と名づけ、全学年において、生活科や総合的な学習を中心として地域と連携したカリキュラムづくりを進めてきた。地域と連携した特色ある教育活動を推進することをESDと捉え、ESDを実践してきたことで、ふるさとを大切に思う心が児童に育ってきていると感じる。また、これまで以上に地域との連携を重要視することで、学校の教育活動に対して、地域の方々の協力がより得られるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「未来にはばたく嵩山学」を活動テーマとして、地域と連携し、特色ある教育活動を推進する。そのために、大きく3つの活動を行う。

1つ目に、地域の自然にかかわる学習として、4年生の総合的な学習「守ろうホタルの里嵩山」を中心に、地域の自然環境を守ろうとする態度の育成を旨とした学習を進める。また、3年生の総合的な学習「未来に伝える嵩山の里山」では、嵩山の山や畑で自慢できることを見つけて発信する学習活動を行っていく。

2つ目に、食農にかかわる学習として、5年生の総合的な学習「続けよう作ろまい嵩山米」で、郷土や農業に携わる人々に対する理解を深めることをねらいとした学習を進める。また、全校の縦割り班（だるま班）で農作物を育てることを通して、食への感謝の気持ちを高める。

3つ目に、6年生の総合的な学習「伝えよう嵩山の歴史」で、地域への理解を深め、誇りに思う心を育てることをねらい、6年生で地域の歴史にかかわる学習を行う。

これらの活動を通して、ふるさとを大切に思う心と未来を生き抜く力を育成していきたい